

地域の居場所における

音楽 ワークショップ ラボ

参加費
無料実践編では
謝金あり

受講者・実践者募集

音楽
コミュニティ
プログラム
学びと実践のイニシアチブ

音楽で人々を幸せにしたい。音楽を通じて、人と人とのつながりをつくりたい。音楽でみんなが楽しめる場づくりをしたい。演奏だけじゃない音楽のアプローチも知りたい。そんな方向けに音楽ワークショップラボを開講いたします。音楽ワークショップの担い手が集まり、教育や福祉、地域社会にその効用を広げていくためのアプローチを模索していきます。

応募フォームはこちる

申込締切
7/28
(月)

このワークショップラボでは、ワークショップに必要な要素や組み立て方、効果に関して学ぶ**学び編**と、その学びを活かして、コミュニティプログラムを開発し、地域の居場所において実施する**実践編**を行います。

1

学び編 8/2~8/17 コミュニティプログラムのレクチャー

定員30名

- ▶ 8/2(土)、8/3(日)、8/9(土)、8/16(土)、8/17(日)
13:00-16:00
可児市文化創造センター ala 音楽ロフト

2

実践編 9/6~10/5 プログラム開発と実践

定員3組

- ▶ 9/6(土)、9/7(日) 13:00-16:00 プログラム開発
可児市文化創造センター ala 音楽ロフト
- ▶ 9/12(金)~9/26(金)の内2日間予定 プログラム実践

※日程、実践場所(地区センター、児童館等)は調整



対象

学
び
編

地域とアートをつなぐことに関心があり、今後ワークショップなどのコミュニティプログラムを地域で行いたい、企画したいと考えているアーティスト、ファシリテーター、コーディネーター。

実践編への参加には以下の条件があります(個人・団体いずれも可)

- 学び編** 講座を受講していること
- 18才以上であり、東海エリアを中心に活動していること
- 音楽大学卒業と同等以上でプロとして活動している演奏家

※希望者多数の場合は、実績等で選考させていただきます。



主催:(公財)可児市文化芸術振興財団

本事業は公益財団法人日本フィランソロピック財団による第1回「東海演奏家の架け橋基金」の助成を受けて実施しています。



写真は「アーラ 未来の演奏家プロジェクト」の様子



学び編の日程・講師



8/2 土

13:00-16:00

常盤 成紀

(公財)堺市文化振興財団
事業課 事業係長

1990年大阪府堺市生まれ。株式会社紀陽銀行、京都市役所/地域おこし協力隊等を経て2021年から公益財団法人堺市文化振興財団事業係長。小中学校・こども園・こども食堂・福祉施設等の現場で、アートコーディネーターとして地域と芸術をつなぐ事業や、担い手を育成する事業の企画・運営管理をしている。アミーキティア管弦楽団主宰。NPO法人CASK理事。茨木市文化振興施策推進委員。大阪公立大学都市科学・防災研究センター客員研究員。

8/3 日

13:00-16:00

大澤 寅雄

合同会社
文化コモンズ研究所

合同会社文化コモンズ研究所代表、NPO法人アートNPOリンク理事長、NPO法人子ども文化地域コーディネーター協会専務理事、日本文化政策学会理事、芸術文化観光専門職大学非常勤講師。地域創造おんかつアドバイザーも務めている。共著=『これからのアートマネジメント』ソーシャル・シェアへの道』『文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと』『文化政策の現在3 文化政策の展望』『ソーシャルアートラボ 地域と社会をひらく』。

8/9 土

13:00-16:00

デモワークショップも開催

岩崎 淳奈

ピアニスト

東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。ウィーン国立音楽大学大学院ピアノ演奏科を審査員満場一致の首席卒業。数々の国際コンクールで入賞を重ね、第16回ショパン国際ピアノコンクール(ワルシャワ)においてディプロマ賞受賞。活動は、本格的なソロリサイタルに加え、現地の音楽学生へのマスターコース、子供たちへのワークショップ等幅広く演奏し、各国で好評を博す。



佐野 秀典

作曲家・編曲家

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修士課程修了。牧野由多可賞作曲コンクール大賞等を受賞。仙台フィルや、新日本フィル、大阪フィルなどで多くの編曲を手がけるほか、各地の音楽祭の企画制作運営や、可児市文化創造センターでは音楽コーディネーターを、東京都交響楽団ではアシスタント・ライブラリアンを務めるなど、幅広く活躍している。

8/16 土

8/17 日

13:00-16:00

デモワークショップも開催

酒井 雅代・ 山崎 朋

ムジタンツ

音楽の酒井雅代と身体表現の山崎朋が互いの専門性を持ち寄り、新しい形のワークショップ型プログラムを開発。主にクラシック音楽を題材に、さまざまな切り口から作品を体感しながら、価値観や創造力が広がっていくような体験となることをを目指している。また、「遊び」を大切なキーワードの一つとして、参加者の興味関心に寄り添いながらやかに進行していくスタイルも特徴。



石川 清隆

表現とまなび実践研究ラボ
代表



千葉市内の公共ホール在職中に、音楽・演劇・身体表現など表現芸術系のワークショップに興味を持ち、表現芸術と社会との繋がりを探求。退職後、表現活動によるまなびとコミュニケーションデザインのプログラム開発・研究・コーディネーターを行う「表現とまなび実践研究ラボ」(合同会社 Foto-Musica(フォトムジカ))を設立、音楽や身体表現のプログラムのコーディネート、人材育成プログラムなどを行っている。